

山の岨にわたしたる橋なり、

生ひすかふ谷の梢を蛛手にて散ぬ花ふむ木曾のかけ橋

蘭原山 小縣郡の内也、伏屋は小諸の山ノ手也、此原には、き木と云もの生ふる、後拾遺雜歌、

信濃なるその原にこそあらね共我は、き木と今はたのまん

更科 いづこ共月は分しをいかなればさやけるらん更科の山

姨捨山 更科郡の内也、やしろの宿よりとくらへ越る間筑間川と云あり、此川の向ふにあり姨

捨石と云も有、

あやしくもなぐさめがたき心かな姨捨山の月も見なくに

有明山 更科の里よりまへにか、へたる山なり、後鳥羽院の御製に

片敷の衣手さむく時雨つ、有明の山にか、るむら雲

浅間山 上野國へ下るに、武藏野より北に見えたり、伊勢物語のうたに、業平朝臣、

信濃成浅間のたけにたつけふり遠近人の見やはとがむる

諏訪の海 水海也、中に湯あり、冬になれば此海水はりつめ、そのうへを道にして行かよふ、俗に

此水のうへに鹿の足あとあれば、是神の通給ふ跡なりとて、是をゑるしに渡ると也、

諏訪の海の氷の橋の通路は神の渡りてとくるなりけり

桐原 望月 兩所共に牧在所也、望月はあしたの宿よりやはたの宿の外にある宿也、西行法師

のうたに、

望月のみまきの駒はさむからし布引山を北とおもへば

須賀荒野 戸隠山 高月山 幾ヶ嶺 筑間川 田毎月

〔延喜式二十八一〕諸國健兒〇中 信濃國一百人〇中